



生きがい情報士通信

Vol.19 2013.2

発行 (財) 健康・生きがい開発財団

記
事

- ① 介護の将来像(地域包括ケアシステム)
- ② 生きがい情報士活動報告
- ③ 生きがい情報士活動報告
- ④ 健康生きがい学会 学会長挨拶/プログラム
- ⑤ 健康生きがい学会報告
- ⑥ 学会報告・Information
- ⑦ ホジュンさんの健康ワンポイント
- ⑧ ご案内/生きがい情報士養成研修会/第4回健康生きがい学会ご案内/平成25年度予定

介護の将来像（地域包括ケアシステム）

生きがい情報士の皆さんにとっての「知つ得情報」として、厚生労働省で2月20日に開催された全国厚生労働関係部局長会議での資料から、一部を紹介いたします。

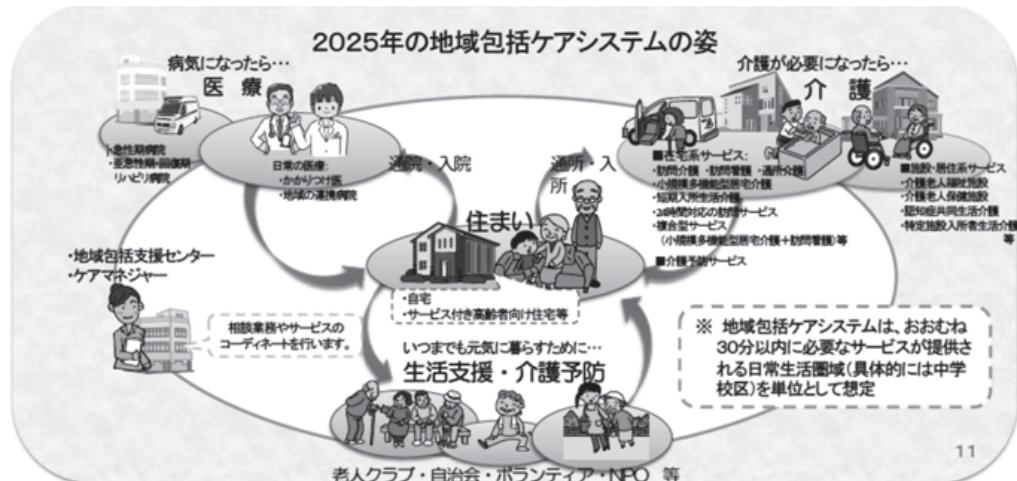
<介護の将来像（地域包括ケアシステム）>

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。

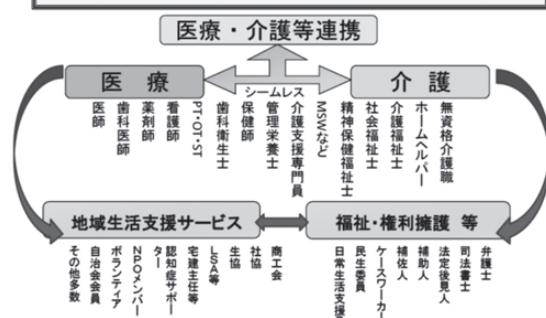
【地域包括ケアの5つの視点による取組み】

地域包括ケアを実現するためには、次の5つの視点での取組みが包括的（利用者のニーズに応じた①～⑤の適切な組み合わせによるサービス提供）、継続的（入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目ないサービス提供）に行われることが必須。

- ① 医療との連携
- ② 介護予防サービスの充実強化
- ③ 予防の推進
- ④ 見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など
- ⑤ 高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備（国交省と連携）



人的連携の視点(住まいの確保前提に)



左図のように、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士は、医療をはじめ、他職種などとの、より一層の「連携」が求められています。

詳しくはこちら⇒

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2013/02/dl/tp0215-11-01p.pdf>